

「日々の理科」(第 3020 号) 2022, 11, 13

## 「秋の東北鉄道旅行 (20)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「羽越本線 (うえつほんせん)」は、新潟県新津駅から、秋田県秋田駅を結ぶ幹線だ。いわゆる「日本海縦貫線」の一区間に当たり、かつては、上野や大阪からの直通優等列車が数多く走っていた。今はそのような長距離列車はないが、新潟・秋田間を結ぶ「特急いなほ号」が一日数往復活躍している。



特急も走る電化幹線だが、多くの区間が単線のままである。列車同士がすれ違えるように、大きな駅では複線になっていることが多い。



駅間が長い区間では、駅でない場所も複線になっている箇所がある。これは「信号所」と呼ばれる鉄道設備だ。対向列車がある場合は、すれちがうまで決して信号が青にならない仕組みになっている。これは「自動閉塞システム」と呼ばれ、列車同士が絶対に正面衝突しないように設計されている。羽越本線の列車は、普通列車では2~4両、特急でも7両ほどだが、この信号所の待避線は長大である。これは羽越本線には、今でも長編成の貨物列車が走っているからである。



羽越本線はまた、海岸風景が美しいことでも有名だ。できれば明るい時間帯に乗りたい線区である。この日は右車窓の日本海に、ずっと夕陽が見えていた。



私はこの列車の終着酒田までは乗らず、途中の「象潟駅」で下車した。有難いことに、象潟は特急停車駅なので、後続の新潟行特急に乗れるのだ。



鉄道駅には「止別 (やむべつ)」「勿来 (なこそ)」「石動 (いするぎ)」など、いわゆる「難読駅名」が数多く存在する。「象潟 (きさかた)」は「横綱級」の難読駅名だろう。地元の人でもなければ「ぞうがた」としか読めない。私がこんな小さな駅で途中下車したのはわけがある。後続の特急発車までの1時間ちょっとの間に、どうしても見たいものがあったのだ。